平成18年度　経済産業省委託事業
流通システム標準化事業

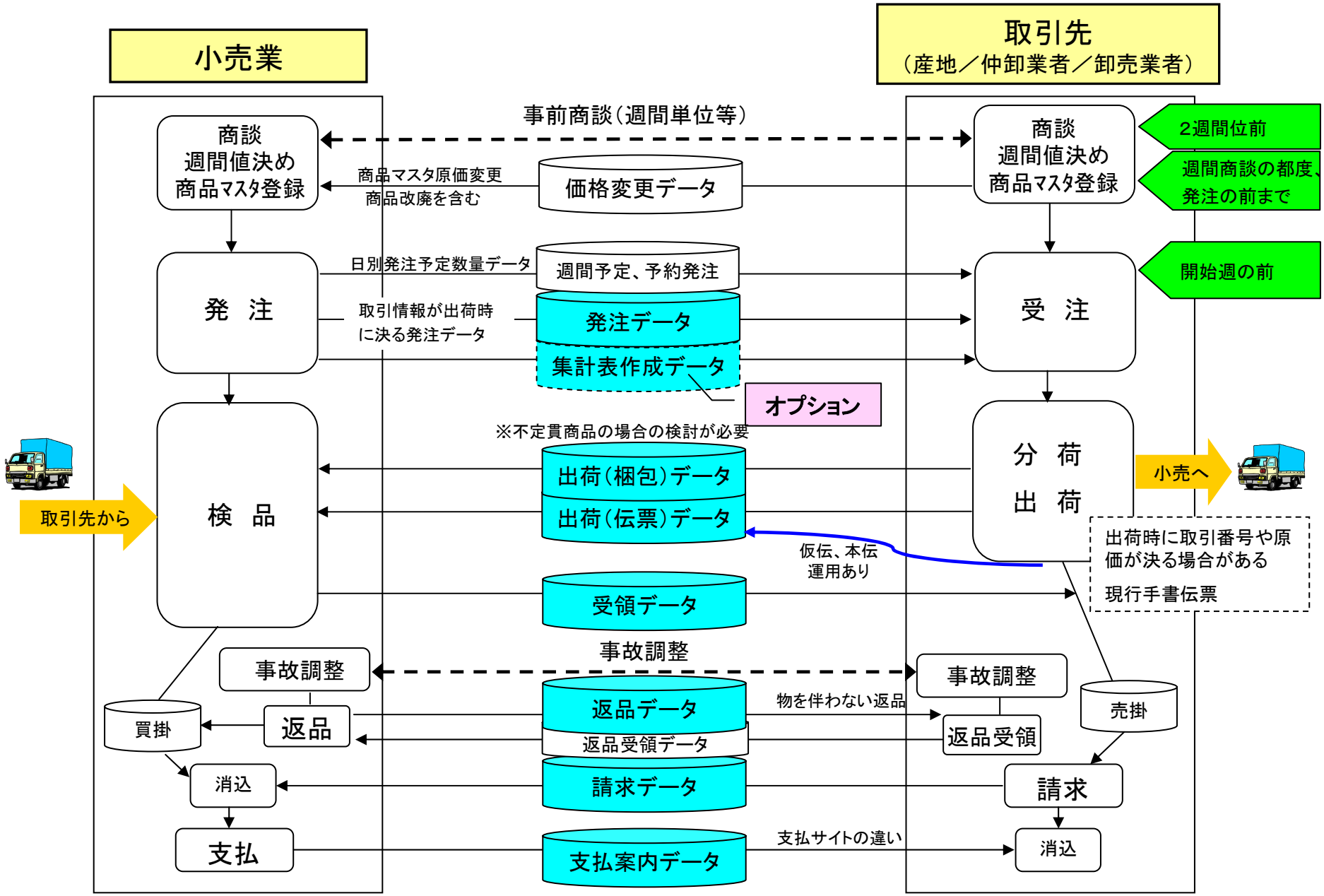
次世代EDI　運用ガイドライン
(生鮮対応版原案)

次世代EDI運用ガイドライン（生鮮対応版原案）の位置付け

- 次世代EDI運用ガイドライン（生鮮対応版原案）は、GMS／SM業界を中心として策定された「運用ガイドライン（基本形）」をベースに、生鮮取引における各メッセージ項目の利用方法を検討したものとなっている。

- 今後は、生鮮側で基本形に手を加えた二つのバージョンを作成するのではなく、１冊の運用ガイドラインの中に「基本形」と「生鮮対応部分」を併記する方向で検討していく。

生鮮の取引業務プロセスモデル
（網かけのメッセージを検討、白地はメッセージを定義する）



Ⅰ．小売側（発注者）企業識別

Ⅰ－1．小売側（発注者）識別のルールの考え方

①．従来は、項目として「店」、「センター」、「計上部署」があり、指定が必要な場合に当事者が任意にセットするルールとしていたため、卸メーカー（受注者）にとって、物流上、商流上の決済ポイントがあいまいになる恐れがあった。

②．よって、最終納品先、直接納品先、計上部署、支払い法人の4つを設けて、「卸メーカー（受注者）は、どこに納品するのか」、「最終的にどこに納品されるのか」「所有権が移転するのはどこか」「支払うのは誰か」を表現できるようにした。

③．最終納品先、直接納品先、計上部署、支払い法人の企業・場所を識別するコードとしては、「各社現行の独自コード」と「GLN」を並列で持つ。それぞれの必須・任意については、EDI上でGLNを表現するメリットを確認したうえで結論をだす。（将来は、GLNは必須項目となることを想定）

Ⅰ－2. 納品ルート別の発注データ上の各項目のセット方法

納品ルート	発注形態	納品形態	直接納品先 （直接納品日）	最終納品先 （最終納品日）	計上部署【注】 （計上予定日）	発注者	納品経路	通過在庫区分	納品区分	出荷ﾒｯｾｰｼﾞﾀｲﾌﾟ
店舗直納 （取引先→店舗）	店別	店別仕分納品	店 店着日	店 店着日	店 店着日	会社	店納品	－	店別	伝票型or梱包型
通過型ｾﾝﾀｰに納品 （取引先→小売TC→店舗）	店別	店別仕分納品	センター ｾﾝﾀｰ着日	店 店着日	店orセンター 店orｾﾝﾀｰ着日	会社	ｾﾝﾀｰ納品	通過	店別	伝票型or梱包型
	店別	総量納品	センター ｾﾝﾀｰ着日	店 店着日	店orセンター 店orｾﾝﾀｰ着日	会社	ｾﾝﾀｰ納品	通過	総量	伝票型
	総量	総量納品	センター ｾﾝﾀｰ着日	センター ｾﾝﾀｰ着日	センター ｾﾝﾀｰ着日	会社	ｾﾝﾀｰ納品	通過	総量	伝票型
在庫型ｾﾝﾀｰに納品 （取引先→小売DC)	総量	買取DC <総量納品>	センター ｾﾝﾀｰ着日	センター ｾﾝﾀｰ着日	センター ｾﾝﾀｰ着日	会社	ｾﾝﾀｰ納品	在庫	総量	伝票型
	－	預りDC <総量納品>	（Ⅰ－4　参照）							

【注】 計上部署と計上予定日は、あくまで商習慣を踏まえ、小売と取引先の事前の売買契約に基づきセットされる。

Ⅰ－3. 発注データ上の計上部署と請求先のセット方法

支払法人(請求先) 社に 発注者(納入先) 社 計上部署 部署 に納品した商品代を、

原則、 計上日(受領データ) を決済日として、請求／支払いを行う 。

支払法人	発注者	直接納品先(直接納品日)	最終納品先(最終納品日)	計上部署(計上日)	請求の方法
A社	A社	C店(店着日)	C店(店着日)	C店(店着日)	A社にA社C店に納品した商品代を請求する
B社	A社	C店(店着日)	C店(店着日)	C店(店着日)	B社にB社のグループ会社であるA社C店に納品した商品代を請求する
A社	A社	Dセンター(ｾﾝﾀｰ着日)	C店(店着日)	Dセンター(ｾﾝﾀｰ着日)	A社にA社Dセンターに納品した商品代を請求する
B社	A社	Dセンター(ｾﾝﾀｰ着日)	C店(店着日)	Dセンター(ｾﾝﾀｰ着日)	B社にB社のグループ会社であるA社Dセンターに納品した商品代を請求する
A社	A社	Dセンター(ｾﾝﾀｰ着日)	C店(店着日)	C店(店着日)	A社にA社C店に納品した商品代を請求する
B社	A社	Dセンター(ｾﾝﾀｰ着日)	C店(店着日)	C店(店着日)	B社にB社のグループ会社であるA社C店に納品した商品代を請求する
A社	A社	Dセンター(ｾﾝﾀｰ着日)	Dセンター(ｾﾝﾀｰ着日)	Dセンター(ｾﾝﾀｰ着日)	A社にA社Dセンターに納品した商品代を請求する
B社	A社	Dセンター(ｾﾝﾀｰ着日)	Dセンター(ｾﾝﾀｰ着日)	Dセンター(ｾﾝﾀｰ着日)	B社にB社のグループ会社であるA社Dセンターに納品した商品代を請求する

Ⅰ－4. 預りDC納品の際のデータ項目セット方法

預りDCは、卸・メーカーが、小売のセンターあるいは、小売が卸に運営委託しているセンターに予め商品を卸・メーカー在庫として、保管しておくビジネスモデルのことを指す。この時に、納品に関するメッセージ種を下記のように定義づける。

①. 在庫補 ,在庫補充

②. 出荷デ メッセージ

③. 入荷確

④. 発注デ はない)。

⑤. 受領デ 果を告知

基本形の状況を見て判断

【①④データにおける納品先と仕入計上の考え方】

納品ルート	メッセージ種	納品形態	直接納品先（直接納品日）	最終納品先（最終納品先）	計上部署【注】（計上予定日）	支払法人	納品経路	通過在庫区分	納品区分	出荷メッセージタイプ
在庫型センターに納品（取引先→小売DC）	在庫補充	総量納品	センター センター着日	センター センター着日	― 納品時点での商品は卸・メーカー所有	―	センター納品	在庫	総量	伝票型
このデータに対し卸メーカーからの納品はされない。	発注	―	― ―	店 店着日	店 店着日	会社	小売預り在庫より出荷	―	直接納品なし	なし

※受領データは他のビジネスモデルと同じ扱い。

Ⅱ．卸ﾒｰｶｰ側（受注者）企業識別

Ⅱ－1. 卸メーカー側（受注者）識別のルール

①. 取引先コード：請求支払いのキーコードとなる。(必須：小売側が設定し、事前に卸メーカー側へ通知）

②. 枝番、出荷先コード：同一会社で、事業所（出荷場所）が異なる場合、EDI情報を区分けするために事業所等を識別する。（任意：卸・メーカーからの依頼に基づき、小売側が設定）

③. 請求取引先：複数の「①取引先コード」の請求支払いをまとめる場合に使用する。（必須：卸・メーカーとの事前の取り決めに基づき、小売側が設定。使用できない、または使用しない場合は、各々に「①取引先コード」をセット
⇒使用する場合は、支払い不照合を未然に防止するためにも、発注時点から小売がセットし、以降の出荷～支払いのメッセージ上に引き継がれていることが望ましい。

④. 発行区分（請求、支払いに使用）：同一請求取引先コード内で、財務管理単位が異なる（事業部独立会計）場合など、請求支払いの単位を区分けするために必要に応じて使用できる識別コード。（任意：卸・メーカーが請求データ上で設定。よって計上払い（請求レス）の場合は使用できない）

請求～支払で使用

必須	任意	任意	必須	任意	任意
取引先ｺｰﾄﾞ	枝番	出荷先ｺｰﾄﾞ	請求取引先	発行区分	連番
ABC社	00（事業所1）	0001（出荷P棟）	X社	01（青果部）	00001～
ABC社	00（事業所1）	0002（出荷Q棟）	X社	02（水産部）	00001～
ABC社	01（事業所2）		X社	03（食肉部）	00001～
BCD社			X社		
CDE社	00（事業所Ⅰ）		CDE社		

Ⅱ－２．卸・メーカーの識別コードとしてのGLNのEDI上の使い方。

GLN：産地・卸・仲卸が付番。（従来の独自コードは小売側が付番。運用が大きく異なる点に注意）

①．「取引先」「請求取引先」識別のためのGLNの使用

現在の請求用取引先コードは、取引当事者間の取引条件、支払いサイト、締め日等で1社複数の設定がされている。この要件を満たしたGLNを卸・メーカー側で用意し、取引相手の小売へ伝える必要がある。

【現行の例】

123456（ｻｲﾄ60日用取引先ｺｰﾄﾞ：小売X社用）
789012（ｻｲﾄ30日用取引先ｺｰﾄﾞ：小売X社用）
345678（ｻｲﾄ60日用取引先ｺｰﾄﾞ：小売Y社用）
901234（ｻｲﾄ30日用取引先ｺｰﾄﾞ：小売Y社用）
567890（ｻｲﾄ45日用取引先ｺｰﾄﾞ：小売Y社用）

取引相手の小売各社からそれぞれコードが付番されるため、自社の財務処理（売掛）には煩雑なコード変換が必要。

【GLNとした場合】

491187231060C（卸A社ｻｲﾄ60日用GLN）
491187231030C（卸A社ｻｲﾄ30日用GLN）
491187231045C（卸A社ｻｲﾄ45日用GLN）

支払い条件を満たす分のGLNを設けて、小売に指定する。

小売各社は、卸の指定したGLNで仕入計上、支払いを行うため、コード変換は比較的楽。（ただし、どの小売分なのかを判別する必要があるため、変換自体はなくならない）

Ⅱ－３．卸・メーカーの識別コードとしてのGLNのEDI上の使い方。

GLN：卸・メーカーが付番。（従来の独自コードは小売側が付番。運用が大きく異なる点に注意）

②．物流拠点、データ受信先（「枝番」「出荷先コード」）識別のためのGLNの使用。

・枝番、出荷先コードはあくまで発注データの分割キーとして使用し、GLNは使用しない。

・分割された発注データに対し、小売側で、卸メーカー側の出荷先拠点を出荷場所GLNにセットすることが可能。卸メーカー側は、出荷データ上で実際の出荷場所のGLNをセットする。（卸・メーカー側の出荷拠点を小売が指定することは想定しない）

③．EDI上の企業・拠点識別コードは、「各社現行の独自コード」と「GLN」を並列で持ち、いずれかを必須とする。（将来は、GLNが必須項目となる）

Ⅲ. 商品識別

Ⅲ－１．商品識別のルール：青果標準商品コード

Ⅲ－１－１　青果で使用される商品コードと青果標準商品コード

①．青果商品コードの種類

- ■ 標準JANコード
- ■ 青果標準商品コード
- ■ インストアコード

②．青果標準商品コード

小売業（量販店）とその取引先間の青果EDIにおいて、汎用品の青果物の規格を識別する共通商品コード。

③．青果標準商品コードの基本的な考え方

- ■ EDIを中心にできるだけ販売でも使用できるもの
- ■ 発注（EDI）に先立ち、詳細な商品規格は商談である程度決定される前提
  - ● 青果標準商品コードの規格は商談時の商品を区別できるレベルであればよい
  - ● 標準コードで不足する規格などの情報は必要に応じて属性コードを追加指定
- ■ 川上・川中で利用が進む青果共通商品コード（P00）との整合性を考慮

※青果以外の生鮮品の商品コードについては、次年度以降検討

Ⅲ－１－２　青果標準商品コードの体系

4922＋<u>標準品名コード</u>＋<u>栽培方法等区分（P）</u>＋<u>規格（XX）</u>＋cd
①　②　③

① 標準品名コード（５桁）
・青果物の品目、品種を表すコード
・青果業界の川上・川中で使用されているベジフル品名コードに準拠

② 栽培方法等区分（１桁）
0：指定なし　1：有機　2：特別栽培　3：無袋（サン）　4：ハウス　5：マルチ
6：輸入　7～9：共通販売規格等コードエリア（リザーブコードを含む）

③ 規格（２桁）
栽培方法等区分の範囲によって下記のとおり設定
・Ｐ＝０～６ ：汎用的、共通的な流通規格および主要販売規格を各１桁の量目コード（Ｖ）と階級コード（Ｓ）を組み合わせて表現
<u>XX＝量目コード（V）＋階級コード（S）</u>

・Ｐ＝７～９ ：上記以外の共通販売規格中心（今後、必要に応じて整備）
<u>XX＝品目ごとにコード化</u>

※ 規格（VS）＝00は青果共通商品コードに相当

Ⅲ－１－３　量目コード（1桁）

- ■ 発注に対して納品される商品形態を識別
- ■ 商品形態は商談で決めた取引方法による
  - ✓ ケース取引
  - ✓ ピース取引

  取引方法に応じて、各量目ともケース単位、またはピース単位に対応
- ■ 汎用的、共通的な量目規格となるようにパターン化してコード化

Ⅰ．通常商品の量目コード

量目コード	流通規格＋主要販売規格（P＝0～6に付番）									
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
量目内容	原体（ハーフ）	原体（レギュラー） 「バラ」を兼ねる	2個入	3個入	4個入	5個入以上 または「その他」※	小袋	袋	大袋	原体（その他）
備　考		・いつもの ・1個売りを兼ねる	・個、本	・個、本	・個、本	「その他」 ・ギフト ・化粧箱 等	・袋、パック、束	・袋、パック、束 ・いつもの袋（パック、束）	・袋、パック、束	

Ⅱ．カット商品の量目コード

量目コード	流通規格＋主要販売規格（P＝0～6に付番）									
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
量目内容	原体（ハーフ）	原体（レギュラー） 「バラ」を兼ねる	1/2	1／3	1/4	1/5以下 または「その他」※	－	－	－	原体（その他）
備　考		・いつもの ・1個売りを兼ねる				「その他」 ・ギフト ・化粧箱 等				

※品目によっては「その他」として利用

■ 流通規格（原体）

同日内の複数の原体（流通規格）を区別するために3種類を用意

- １ :原体（レギュラー）　～ その品目の中で一般的、代表的な重量（いつもの）
- ０ :原体（ハーフ）　～ レギュラー品のハーフサイズ
- ９ :原体（その他）　～ 上記以外のもの

■ 販売規格

販売規格として、ピース（４種類）と袋（３種類）を用意

- ２ :２個入
- ３ :３個入
- ４ :４個入
- ５ :５個入以上

商品に応じて、個、本などに読替え

- ６ :小袋
- ７ :袋
- ８ :大袋

商品に応じて、袋、パック、束などに読替え

■ その他

- “1”は、1個売り（販売用のバラ）も兼ねる
- 品目によって、“５”はその他としてギフト、化粧箱などに使用
- カット商品は、“２”～“５”を1/2～1/5以下にそれぞれ読替えて使用

Ⅲ－１－４　階級コード（１桁）

■ S・M・L（サイズ）を基本としてコード化

■ 品目によって玉数などの固有表現をパターン化してコード化

各玉数表現等は、業界慣習に沿って各サイズに対応づけてコード化

例）白菜（玉）、りんご（玉）、いちご（SML＋A、B）　・・・

＜階級パターンの例＞

パターン		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
基本表現		指定なし	2S以下	S	M	L	2L	3L	4L以上	ー	その他
大小表現		指定なし	ー	小	中	大	ー	ー	ー	ー	その他
玉数	白菜	指定なし	ー	ー	8玉	6玉	4玉	ー	ー	ー	その他
	りんご等	指定なし	50玉以上	46玉	40玉	36玉	32玉	28/26玉	24玉以下	ー	その他
	・・・	・・・									
いちご		指定なし	B	S	M	L	2L	3L	A	2A	その他
・・・		・・・									

規格コード一覧（通常商品）

		階級(サイズ)									
		指定無し	2S以下	S	M	L	2L	3L	4L以上	(予備)	その他
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
量目	原体(ハーフ)	※	ハーフ 2S以下	ハーフ S	ハーフ M	ハーフ L	ハーフ 2L	ハーフ 3L	ハーフ 4L以上	ー	ハーフ その他
	0	(00)	01	02	03	04	05	06	07	08	09
	原体(レギュラー)	レギュラー	レギュラー 2S以下	レギュラー S	レギュラー M	レギュラー L	レギュラー 2L	レギュラー 3L	レギュラー 4L以上	ー	レギュラー その他
	1	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
	2個入	2個入	2個入 2S以下	2個入 S	2個入 M	2個入 L	2個入 2L	2個入 3L	2P入 4L以上	ー	2個入 その他
	2	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
	3個入	3個入	3個入 2S以下	3個入 S	3個入 M	3個入 L	3個入 2L	3個入 3L	3P入 4L以上	ー	3個入 その他
	3	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
	4個入	4個入	4個入 2S以下	4個入 S	4個入 M	4個入 L	4個入 2L	4個入 3L	4P入 4L以上	ー	4個入 その他
	4	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49
	5個入以上	5個入以上	5個入以上 2S以下	5個入以上 S	5個入以上 M	5個入以上 L	5個入以上 2L	5個入 3L	5P入以上 4L以上	ー	5個入以上 その他
	5	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59
	小袋	小袋	小袋 2S以下	小袋 S	小袋 M	小袋 L	小袋 2L	小袋 3L	小袋 4L以上	ー	小袋 その他
	6	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69
	袋	袋	袋 2S以下	袋 S	袋 M	袋 L	袋 2L	袋 3L	袋 4L以上	ー	袋 その他
	7	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79
	大袋	大袋	大袋 2S以下	大袋 S	大袋 M	大袋 L	大袋 2L	大袋 3L	大袋 4L以上	ー	大袋 その他
	8	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89
	原体(その他)	原体その他	原体その他 2S以下	原体その他 S	原体その他 M	原体その他 L	原体その他 2L	原体その他 3L	原体その他 4L以上	ー	原体その他 その他
	9	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99

※ 青果共通商品コード

規格コード一覧（カット商品）

		階級（サイズ）									
		指定無し	2S以下	S	M	L	2L	3L	4L以上	（予備）	その他
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
量目	原体（ハーフ）	※	ハーフ 2S以下	ハーフ S	ハーフ M	ハーフ L	ハーフ 2L	ハーフ 3L	ハーフ 4L以上	ー	ハーフ その他
	0	（00）	01	02	03	04	05	06	07	08	09
	原体（レギュラー）	レギュラー	レギュラー 2S以下	レギュラー S	レギュラー M	レギュラー L	レギュラー 2L	レギュラー 3L	レギュラー 4L以上	ー	レギュラー その他
	1	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
	1/2	1/2	1/2 2S以下	1/2 S	1/2 M	1/2 L	1/2 2L	1/2 3L	1/2 4L以上	ー	1/2 その他
	2	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
	1/3	1/3	1/3 2S以下	1/3 S	1/3 M	1/3 L	1/3 2L	1/3 3L	1/3 4L以上	ー	1/3 その他
	3	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
	1/4	1/4	1/4 2S以下	1/4 S	1/4 M	1/4 L	1/4 2L	1/4 3L	1/4 4L以上	ー	1/4 その他
	4	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49
	1/5以下	1/5以下	1/5以下 2S以下	1/5以下 S	1/5以下 M	1/5以下 L	1/5以下 2L	1/5以下 3L	1/5以下 4L以上	ー	1/5個以下 その他
	5	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59
	（予備）	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
	6	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69
	（予備）	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
	7	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79
	（予備）	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
	8	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89
	原体（その他）	原体その他	原体その他 2S以下	原体その他 S	原体その他 M	原体その他 L	原体その他 2L	原体その他 3L	原体その他 4L以上	ー	原体その他 その他
	9	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99

※ 青果共通商品コード

Ⅲ－１－５　青果EDI　商品タイプ別商品コードセット方法

- ■ 将来的に、現状の個別商品コード（インストアコード）から共通商品コードへの利用を目指す
- ■ 川中・川上側における対応のために、必要に応じて取引先用EDI項目に青果共通商品コード（4922+青果標準品名コード+P00+cd）をセット

目指すべき方向性

	共通商品コード ←			個別商品コード
商品タイプ / EDI項目	①ソースマーキング商品	共通規格商品（汎用品）		④店舗独自規格商品
		②流通規格＋主要販売規格	③左記以外（販売規格中心）	
GTIN	0＋標準JANコード	－	－	－
発注用	0＋標準JANコード	青果標準商品コード 4922+標準品名+PVS+cd （P=0～6）	青果標準商品コード 4922+標準品名+P× ×+cd （P=7～9）	インストアコード （2012345・・・）
取引先用 ※	4922+標準品名+P00+cd （P＝0～6）	4922+標準品名+P00+cd （P＝0～6）	4922+標準品名+P00+cd （P＝0～6）	4922+標準品名+P00+cd （P＝0～6）
商品コード区分	GTIN-14（006）	EAN/UCC-13（005）	EAN/UCC-13（005）	自社コード（999）
商品属性 ※※	必要に応じて追加指定	必要に応じて追加指定	必要に応じて追加指定	必要に応じて追加指定
備　考	・標準JANでソースマーキングされた産地パック商品やPB商品	・原則、量目（V）と階級（S）コードの組合わせで付番 ・量目は汎用性、共通性が高い流通規格を中心に、一部販売規格 ・V、S＝0（指定なし）は川上・川中EDIの青果共通商品コードに一致	・②以外の共通的な販売規格等を必要に応じて順次整備 ・規格（XX）は品目毎に設定 ・P=9から付番（残りはリザーブ）	・②、③以外の店舗の個別性が高い商品や販売規格などに使用

※ 取引先用　＝ 川中・川上でのEDIへの対応を考慮し、任意で青果共通商品コード（4922+標準品名+P00+cd）をセット
※※ 商品属性＝ 産地コード、産地名、原産エリア、等級、階級、プロモーション、バイオ区分　等

Ⅲ－2. 商品識別のルール:定貫商品、不定貫商品

①. 定貫商品とは?

定貫商品とは、原価が商品コードに依存した発注単位（個数、ケース数等）で決定する商品。

②. 不定貫商品とは?

不定貫商品とは、商品の性格上または製造工程上の理由から最終成果品の完成重量の確定ができない商品のこと。このため、完成重量にバラツキが生じ、価格が多少前後する結果となる。従って、原価が重量で決定する商品のことである。

③. 不定貫区分について

・上記定貫商品、不定貫商品を区別する区分。01⇒不定貫商品、00⇒定貫商品

④. 商材別の定貫商品、不定貫商品の発注状況

	青果	食肉	水産物	花き
定貫商品	○	○	○	○
不定貫商品	△（※）	○	○	×

※松茸等で不定貫となる場合もある

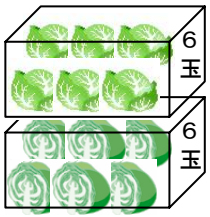
Ⅲ－3. 商品識別の考え方：各項目の使い方

※生鮮追加項目

項目名称	型・桁	内容
規格	Text(25)	商品コードと連動した店頭での販売荷姿を表す。売り方を分かりやすくするようなものを入れる。 バラ、パック、4個パック、1/2カット、束、ケースなど。
入数	Text(25)	出荷単位の荷姿に入っている数量。ケース入数が不確定な場合や不定貫の場合は重量を入れる。
発注単位	Numeric(4)	最低発注ロット数を表す。
発注単位コード	Code(4)	商品の発注単位の呼称。個、ケース、パック、g、Kg など。発注単位とセットで使用する。
発注数量（発注単位数）	Quantity(6)	発注単位換算した発注数量。
発注数量（バラ）	Quantity(7)	発注単位×発注数量（発注単位数）。
発注荷姿コード	Code(2)	実梱包形態にそった発注単位を設定している場合に限り、その荷姿を明示する。バラ、ケース、個、パックなど。
原単価、売単価	Amount(10)	単価登録単位当たりの単価。売単価0の場合「0」をいれることは可。
単価登録単位	Code(2)	不定貫の場合の単価登録の単位を表す。100g当たり、1Kg当たりなど。
発注重量	Measure(7)	不定貫商品の場合に使用し、発注時の推定重量を表す。出荷・受領・返品重量は、確定重量を表す。
内容量	Measure(5)	不定貫発注でパック、個を使う場合、発注数量（バラ）1個当たりの容量を表す。

【定貫商品の場合】

出荷段階　　店舗



入数=6玉
発注荷姿=ケース

発注単位=6個
発注数量（発注単位数）=1
発注数量（バラ）=6

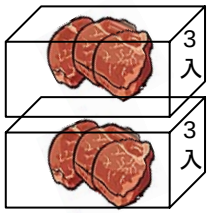
発注単位=12個
発注数量（発注単位数）=1
発注数量（バラ）=12

規格=バラ

規格=1/2カット

【不定貫商品の場合】

出荷段階　　店舗



入数=3
発注荷姿=ケース
内容量=27.0Kg
単価登録単位=Kg
原単価=3000円/Kg

和牛ブロック（単品：ﾊﾟｰﾂ発注）

発注単位=1
発注数量（発注単位数）=2
発注数量（バラ）=2
発注重量=54.0Kg
出荷重量=54.2Kg
受領重量=54.2Kg

規格=27Kgﾌﾞﾛｯｸ
売単価=3500円/Kg

※生鮮追加項目

項目名称	型・桁	内容
商品コード（出荷元）	Identifier(14)	ソースマーキングされた生産者コード。納品時に必要に応じてセットする。
等級	Text(8)	商品のグレードを表す（A，B，C，秀，優、良など）。
階級	Text(8)	商品のサイズを表す（L，M，S，大，中，小など）。
銘柄	Text(30)	産地銘柄を表す。特定の品種や産地を指定して商品化したブランド品の名称。
商品PR	Text(30)	朝採り、葉付き、土付き、根付きなど商品に関するこだわりや商品PR、商品特性、おすすめ情報を表す。
バイオ区分	Code(2)	商品栽培時のバイオ技術の適用種別を表す区分。
取引単位重量	Measure(7)	卸売市場等で取引される単位重量（5Kg、10kgなど）。Kgで表す。小数点以下3桁。

（使用例）

【野菜の場合】

発注段階

商品ｺｰﾄﾞ（発注用）=4922317000238
商品ｺｰﾄﾞ（取引先）=4922317000008
商品名=キャベツ
等級=Ａ
階級=Ｌ
銘柄=嬬恋高原キャベツ
商品PR=朝取り
取引単位重量=10

出荷段階

商品ｺｰﾄﾞ（発注用）=4922317000238
商品ｺｰﾄﾞ（取引先）=4922317000008
商品ｺｰﾄﾞ（出荷元）=4912345678901
商品名=キャベツ
等級=Ａ
階級=Ｌ
銘柄=嬬恋高原キャベツ
商品PR=朝取り
取引単位重量=10

【食肉の場合】

発注段階

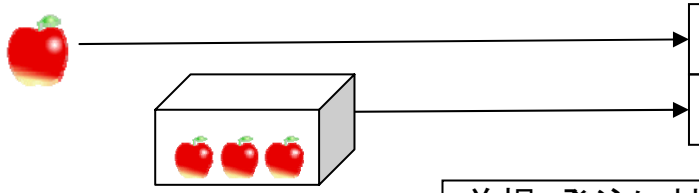
商品ｺｰﾄﾞ（発注用）=4922813200001
商品名=和牛肩ロースブロック
銘柄=松坂牛

出荷段階

商品ｺｰﾄﾞ（発注用）=4922317000238
商品名=和牛肩ロースブロック
銘柄=松坂牛

Ⅲ－4. データのセット方法<生鮮定貫商品>

①. ふじりんごの例（定貫のサンプル）



4922428300141	バラ
4922428300943	ケース（36玉入）

前提：発注に対して実際の納品が1ケース不足した場合の発注・納品・受領データ

[発注]

発注商品コード	商品名	規格	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	原価金額	売価金額	入数	発注荷姿
4922428300141	ふじりんごバラ	ﾊﾞﾗ	100	120	36	個	1	36	3,600	4,320	36玉	ｹｰｽ
4922428300943	ふじりんごケース	ｹｰｽ	3,000	3,500	1	ｹｰｽ	10	10	30,000	35,000	36玉	ｹｰｽ

[出荷（納品）]

発注商品コード	商品名	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量（発注単位数）	発注数量（バラ）	出荷数量（バラ）	出荷数量（発注単位数）	欠品数量（ﾊﾞﾗ）	欠品数量（発注単位数）	原価金額	売価金額	入数
4922428300141	ふじりんごバラ	100	120	36	個	1	36	36	1	0	0	3,600	4,320	36玉
4922428300943	ふじりんごケース	3000	3500	1	ｹｰｽ	10	10	9	9	1	1	27,000	31,500	36玉

[受領]

発注商品コード	商品名	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量（発注単位数）	発注数量（バラ）	出荷数量（バラ）	出荷数量（発注単位数）	受領数量（ﾊﾞﾗ）	受領数量（発注単位数）	原価金額	売価金額	入数
4922428300141	ふじりんごバラ	100	120	36	個	1	36	36	1	36	1	3,600	4,320	36玉
4922428300943	ふじりんごケース	3000	3500	1	ｹｰｽ	1	10	9	9	9	9	27,000	31,500	36玉

Ⅲ－5. データのセット方法<生鮮不定貫商品>

数量とは別に重量の項目を追加する⇒　**『発注重量』『出荷重量』『受領重量』**

・発注時は、『発注重量』に推定重量をセットする（必須ではない）。

・出荷以降については、『出荷重量』『受領重量』に確定重量をセットする。原価金額、売価金額は再計算する。

【計算式】

重量	＝	**内容量**	×	**発注数量（バラ）**	**：小数点３桁**
原価金額	＝	原単価	×	重量	
売価金額	＝	売単価	×	重量	

アウトパック商品はg単位での取引があり得る (Kgでは小数点以下3桁)。事前に会社間で取り決めしておく内容。

「単価登録単位」と「内容量」の単位については**一致させる**。

「内容量」は発注数量（バラ）１個当たりの容量を表す。

[発注]　　推定

発注商品コード	商品名	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	原価金額	売価金額	単価登録単位	内容量	発注重量
4922813200001	和牛肩ロース	3,000	3,500	1	ｹｰｽ	2	2	162,000	189,000	1Kg	27.00Kg	54.00

単価登録単位の原価／売価

売価／売価金額は0でも可

[出荷(納品)]　　確定

発注商品コード	商品名	原単価	売単価	発注単位	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	出荷数量(発注単位数)	出荷数量(バラ)	欠品数量(発注単位数)	欠品数量(ﾊﾞﾗ)	原価金額	売価金額	発注重量	出荷重量
4922813200001	和牛肩ロース	3,000	3,500	1	2	2	2	2	0	0	162, 600	189,700	54.00	54.20

再計算

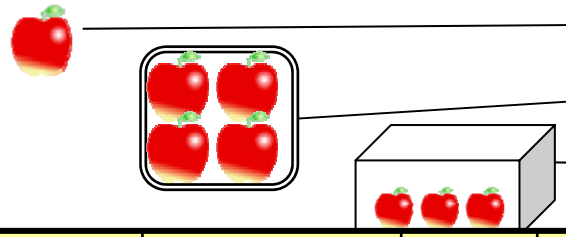
[受領]　　確定

発注商品コード	商品名	原単価	売単価	発注単位	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	出荷数量(発注単位数)	出荷数量(バラ)	受領数量(発注単位数)	受領数量(ﾊﾞﾗ)	原価金額	売価金額	発注重量	出荷重量	受領重量
4922813200001	和牛肩ロース	3,000	3,500	1	2	2	2	2	2	2	162, 600	189,700	54.00	54.20	54.20

再計算

Ⅲ－6. 発注データのセット方法 <青果>

①. ふじりんごの例 （定貫のサンプル）



4922428300141	バラ
4922428300448	4個パック
4922428300943	ケース（36玉入）

発注商品コード	商品名	規格	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	原価金額	売価金額	入数	発注荷姿
4922428300141	ふじりんごバラ	ﾊﾞﾗ	100	120	36	個	1	36	3,600	4,320	36玉	ｹｰｽ
4922428300448	ふじりんご4個ﾊﾟｯｸ	4個ﾊﾟｯｸ	360	400	9	個 or ﾊﾟｯｸ	1	9	3,240	3,600	36玉	ｹｰｽ
4922428300943	ふじりんごケース	ｹｰｽ	3,000	3,500	1	個 or ｹｰｽ	1	1	3,000	3,500	36玉	ｹｰｽ

②. キャベツの例 （定貫のサンプル）

4922317000046	½カット
4922317000541	バラ
4922317000947	ケース（10玉入）

発注商品コード	商品名	規格	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	原価金額	売価金額	入数	発注荷姿
4922317000046	キャベツ ½ｶｯﾄ	½ｶｯﾄ	100	120	20	個	5	100	10,000	12,000	10玉	ｹｰｽ
4922317000541	キャベツ　バラ	ﾊﾞﾗ	200	240	10	個	5	50	10,000	12,000	10玉	ｹｰｽ
4922317000947	キャベツ　ケース	ｹｰｽ	2,000	2,400	1	個 or ｹｰｽ	5	5	10,000	12,000	10玉	ｹｰｽ

③. 国産松茸の例 （不定貫のサンプル）

（3箱発注）

4922382000101	国産松茸約400g入(4～8本)

前提①：約400g入国産松茸を3箱(約1.2Kg)発注した場合の発注データ
前提②：実際の納品が3箱、合計重量が1.5Kgだった場合の納品データ
前提③：入荷検品時の合計重量が1.5Kgだった場合の受領データ

[発注]

(推定)

発注商品コード	商品名	規格	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	原価金額	売価金額	単価登録単位	内容量	入数	発注荷姿	発注重量
4922382000101	国産松茸約400g入	木箱	50,000	60,000	1	箱	3	3	60,000	72,000	1Kg	0.40 Kg	4本	ｹｰｽ	1.20

[出荷（納品）]

(再計算) (確定)

発注商品コード	商品名	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	出荷数量(発注単位数)	出荷数量(バラ)	欠品数量(発注単位数)	欠品数量(ﾊﾞﾗ)	原価金額	売価金額	発注重量	出荷重量
4922382000101	国産松茸約400g入	50,000	60,000	1	箱	3	3	3	3	0	0	75，000	90,000	1.20	1. 50

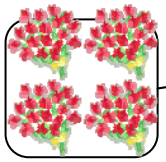
[受領]

(再計算) (確定)

発注商品コード	商品名	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	出荷数量(発注単位数)	出荷数量(バラ)	受領数量(発注単位数)	受領数量(ﾊﾞﾗ)	原価金額	売価金額	発注重量	出荷重量	受領重量
4922382000101	国産松茸約400g入	50,000	60,000	1	箱	3	3	3	3	30	30	75，000	90,000	1.20	1.50	1.50

Ⅲ－7. 発注データのセット方法 <花き>

①. 花束の例 （定貫のサンプル）



20100001	和花束
20100002	和花束20束

発注商品コード	商品名	規格	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	原価金額	売価金額	入数	発注荷姿
20100001	和花束	ﾊﾞﾗ	100	150	20	個	3	60	6,000	9,000	20束	ｹｰｽ
20100002	和花束20束	20束	2,000	3,000	1	個 or ケース	3	3	6,000	9,000	20束	ｹｰｽ

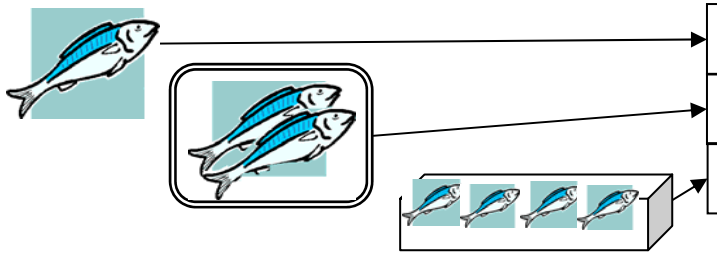
②. カーネーションの例 （定貫のサンプル）

4922191174000	カーネーション鉢バラ
4922191174017	カーネーション鉢ケース

発注商品コード	商品名	規格	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	原価金額	売価金額	入数	発注荷姿
4922191174000	カーネーション鉢バラ	ﾊﾞﾗ	300	500	10	個	5	50	15,000	25,000	10鉢	ｹｰｽ
4922191174017	カーネーション鉢ケース	ｹｰｽ	3,000	5,000	1	個or ｹｰｽ	5	5	15,000	25,000	10鉢	ｹｰｽ

Ⅲ－8. 発注データのセット方法 <水産物>

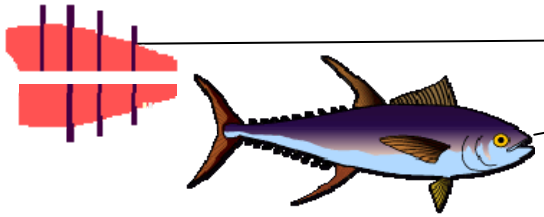
①. アジの例 （定貫のサンプル）



4922613102000	アジ1尾
4922613102024	アジ2尾パック
4922613102017	アジ トロ箱3Kg

発注商品コード	商品名	規格	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	原価金額	売価金額	入数	発注荷姿
4922613102000	アジ1尾	1尾	100	140	20	個	1	20	2,000	2,800	20尾	ｹｰｽ
4922613102024	アジ2尾ﾊﾟｯｸ	2尾ﾊﾟｯｸ	200	280	1	個 or ﾊﾟｯｸ	10	10	2,000	2,800	20尾	ｹｰｽ
4922613102017	アジ トロ箱	3Kgﾄﾛ箱	2,400	3,360	1	個 or ｹｰｽ	1	1	2,400	3,360	20尾	ｹｰｽ

②. まぐろの例　（不定貫のサンプル）



4922610103062	まぐろブロックロイン(1/4)
4922610103000	まぐろ1尾

[発注]　　(推定)

発注商品コード	商品名	規格	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	原価金額	売価金額	単価登録単位	内容量	入数	発注荷姿	発注重量
4922610103062	まぐろﾌﾞﾛｯｸ ﾛｲﾝ	ﾌﾞﾛｯｸ	1,000	1,500	1	個	10	10	10,000	15,000	1Kg		1	ｹｰｽ	10.00
4922610103000	まぐろ	1尾	2,000	2,200	1	尾	1	1	20,000	22,000	1Kg		1	ｹｰｽ	10.00

[出荷（納品）]　　(再計算)　(確定)

発注商品コード	商品名	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	出荷数量(発注単位数)	出荷数量(バラ)	欠品数量(発注単位数)	欠品数量(ﾊﾞﾗ)	原価金額	売価金額	発注重量	出荷重量
4922610103062	まぐろﾌﾞﾛｯｸ ﾛｲﾝ	1,000	1,500	1	個	10	10	10	10	0	0	12,000	18,000	10.00	12.00
4922610103000	まぐろ	2,000	2,200	1	尾	1	1	1	1	0	0	24,000	26,400	10.00	12.00

[受領]　　(再計算)　(確定)

発注商品コード	商品名	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	出荷数量(発注単位数)	出荷数量(バラ)	受領数量(発注単位数)	受領数量(ﾊﾞﾗ)	原価金額	売価金額	発注重量	出荷重量	受領重量
4922610103062	まぐろﾌﾞﾛｯｸ ﾛｲﾝ	1,000	1,500	1	個	10	10	10	10	10	10	12,000	18,000	10.00	12.00	12.00
4922610103000	まぐろ	2,000	2,200	1	尾	1	1	1	1	1	1	24,000	26,400	10.00	12.00	12.00

Ⅲ－9. 発注データのセット方法 <食肉>

食肉のメッセージ検討における発注形態の組合せパターン

畜種		牛		豚		鶏	
		国産	輸入	国産	輸入	国産	輸入
1 ブロック肉	単品:不定貫	1-1	1-4	1-1	1-1		
	規格ｾｯﾄ:不定貫	1-2					
	セット:不定貫	1-3		1-3			
	単品:定貫					1-5	1-5
2 スライス肉	単品:不定貫	2-1	2-1	2-1	2-1	2-1	2-1
	単品:定貫	2-2	2-2	2-2	2-2	2-2	2-2
3 ミンチ肉	単品:不定貫	3-1	3-1	3-1	3-1	3-1	3-1
	単品:定貫	3-2	3-2	3-2	3-2	3-2	3-2
その他	単品:不定貫						
	単品:定貫						

①チルド、フローズン：属性情報であるが、商品コードが異なる。

②スライス肉とミンチ肉：同じ商品分類であるが、定貫・不定貫で発注形態を分けた分類が必要。

（参考）部分肉の入数と重量

豚部分肉の入数とケース重量		
部　位 名　称	入　数 （本）	ｹｰｽ重量 （ｋｇ）
ウデ	2	12
カタロース	4	9
ロース	4	18
バラ	4	16
モモ	2	18
ヒレ	10	5

牛部分肉の入数とケース重量（半丸）			
部　位 名　称	ﾚｷﾞｭﾗｰ 入数	SPｶｯﾄ （本）	ｹｰｽ重量 （ｋｇ）
ウデ	1	３～４	２０
カタロース	1	３～４	２７
ブリスケット	1	１～２	１５
三角バラ	1	１～２	６
リブロース	1	２～３	９
サーロイン	1	３～４	１０
ヒレ	1	２～３	６
ソトバラ	1	３～４	２０
ウチバラ	1	３～４	１９
ウチモモ	1	２～３	１１
シンタマ	1	２～３	１０
ソトモモ	1	２～３	１２
ランプ	1	2	１０
トモズネ	1	1	３
マエスネ	1	１～２	５

1-1. 和牛ブロック【単品：パーツ発注】の例 （不定貫）

4922813200001	和牛肩ロース (約27kg)

前提①：和牛肩ロースブロック(約27Kg)を2個(約54Kg)発注した場合の発注データ
前提②：実際の納品が合計重量が54.2Kgだった場合の納品データ
前提③：入荷検品時の合計重量が54.2Kgだった場合の受領データ

[発注]

(推定)

発注商品コード	商品名	規格	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	原価金額	売価金額	単価登録単位	内容量	入数	発注荷姿	発注重量
4922813200001	和牛肩ロース	1.5Kg	3,000	3,500	1	ｹｰｽ	2	2	162,000	189,000	1Kg	27.0 Kg	3	ｹｰｽ	54.0

[出荷（納品）]

(再計算) (確定)

発注商品コード	商品名	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	出荷数量(発注単位数)	出荷数量(バラ)	欠品数量(発注単位数)	欠品数量(ﾊﾞﾗ)	原価金額	売価金額	発注重量	出荷重量
4922813200001	和牛肩ロース	3,000	3,500	1	ｹｰｽ	2	2	2	2	0	0	162,600	189,700	54.0	54.2

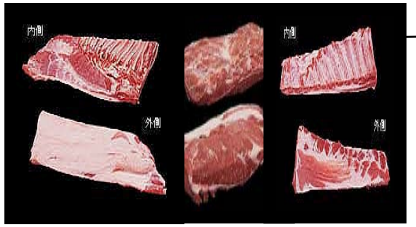
[受領]

(再計算) (確定)

発注商品コード	商品名	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	出荷数量(発注単位数)	出荷数量(バラ)	受領数量(発注単位数)	受領数量(ﾊﾞﾗ)	原価金額	売価金額	発注重量	出荷重量	受領重量
4922813200001	和牛肩ロース	3,000	3,500	1	ｹｰｽ	2	2	2	2	2	2	162,600	189,700	54.0	54.2	54.2

①ケース（ダンボール）にネックと2分割肩ロースが入って『入数：3』。（入数は、分割数により異なる）
②発注単位コードは、ケースでよいのか？ （箱詰は、納品先により異なる。）
③チルド、フローズンは、商品コードにて分類する。（同じ部位でも単価が違う。）

1-2. 和牛ブロック【規格セット発注】の例 （不定貫）



4922811030006	和牛1/4セット

前提①：和牛1／4セット(約75Kg)を発注した場合の発注データ
前提②：実際の納品が合計重量が75.5Kgだった場合の納品データ
前提③：入荷検品時の合計重量が75.5Kgだった場合の受領データ

[発注]

(推定)

発注商品コード	商品名	規格	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	原価金額	売価金額	単価登録単位	内容量	入数	発注荷姿	発注重量
4922811030006	和牛1/4ｾｯﾄ	75Kg	2,500	3,000	1	ｹｰｽ	1	1	187,500	225,000	1Kg	75.0 Kg	4	ｹｰｽ	75.0

[出荷（納品）]

(再計算) (確定)

発注商品コード	商品名	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	出荷数量(発注単位数)	出荷数量(バラ)	欠品数量(発注単位数)	欠品数量(ﾊﾞﾗ)	原価金額	売価金額	発注重量	出荷重量
4922811030006	和牛1/4ｾｯﾄ	2,500	3,000	1	ｹｰｽ	1	1	1	1	0	0	188,750	226,500	75.0	75.5

[受領]

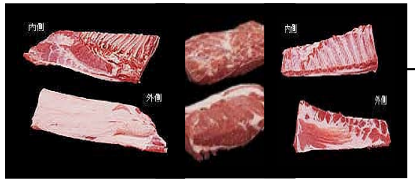
(再計算) (確定)

発注商品コード	商品名	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	出荷数量(発注単位数)	出荷数量(バラ)	受領数量(発注単位数)	受領数量(ﾊﾞﾗ)	原価金額	売価金額	発注重量	出荷重量	受領重量
4922811030006	和牛1/4ｾｯﾄ	2,500	3,000	1	ｹｰｽ	1	1	1	1	0	0	188,750	226,500	75.0	75.5	75.5

入数の考え方？

【規格セットについて】
①発注形態は、単品：パーツ発注と同じ。
②ケースラベルの商品名は、「和牛1／4セット」。 この場合の入数は、1商品名称に対し「4ケース」
③ケース内は、ピースの商品ラベルは、実部位名称。

1-3. 国産牛ブロック【セット発注】の例 （不定貫）



（商談発注）→ 4922821010005 | 国産牛セット（不定貫）

[発注]

国産牛セット：毎週木曜日３頭納品

前提①：発注は、紙ベース（メール、FAX）
前提②：納品は、部位別の納品データ
前提③：入荷検品時の部位別の受領データ

[出荷（納品）]

発注商品コード	商品名	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量（バラ）	出荷数量（発注単位数）	出荷数量（バラ）	欠品数量（発注単位数）	欠品数量（ﾊﾞﾗ）	原価金額	売価金額	発注重量	出荷重量
4922823100001	国産牛ウデ	1000	1100	2	ケース	6	6	6	6	0	0	124,600	137,060	120.0	124.6
4922823200008	国産牛肩ﾛｰｽ	1500	1600	2	ケース	6	6	6	6	0	0	255,300	272,320	162.0	170.2
…	…														

【発注・出荷データについて】
①1頭単位での商談ベースでの発注、納品先は、委託PC会社もある。
②1頭当たり16ケースあり、出荷（納品）データが送られる。
③出荷（納品）データは、部位別に作成される。

[受領]

発注商品コード	商品名	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量（発注単位数）	発注数量（バラ）	出荷数量（発注単位数）	出荷数量（バラ）	受領数量（発注単位数）	受領数量（ﾊﾞﾗ）	原価金額	売価金額	発注重量	出荷重量	受領重量
4922823100001	国産牛ウデ	1000	1100	2	ケース	2	2	2	2	0	0	124,600	137,060	120.0	124.6	124.6
4922823200008	国産牛肩ﾛｰｽ	1500	1600	2	ケース	2	2	2	2	0	0	255,300	272,320	162.0	170.2	170.2
…	…															

1-4. 輸入牛ブロック【単品：パーツ発注】の例 （不定貫）

4922835120004	輸入牛キューブロール(約16kg)

前提①：輸入牛キュブロールブロック(約16Kg)を2個発注した場合の発注データ
前提②：実際の納品が合計重量が32.2Kgだった場合の納品データ
前提③：入荷検品時の合計重量が32.2Kgだった場合の受領データ

[発注]

(推定)

発注商品コード	商品名	規格	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	原価金額	売価金額	単価登録単位	内容量	入数	発注荷姿	発注重量
4922835120004	輸入牛キューブロール	16Kg	2,000	2,500	1	ケース	2	2	64,000	80,000	1Kg	16.0 Kg	4	ケース	32.0

[出荷（納品）]

(再計算) (確定)

発注商品コード	商品名	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	出荷数量(発注単位数)	出荷数量(バラ)	欠品数量(発注単位数)	欠品数量(バラ)	原価金額	売価金額	発注重量	出荷重量
4922835120004	輸入牛キューブロール	2,000	2,500	1	ケース	2	2	2	2	0	0	64,400	80,500	32.0	32.2

[受領]

(再計算) (確定)

発注商品コード	商品名	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	出荷数量(発注単位数)	出荷数量(バラ)	受領数量(発注単位数)	受領数量(バラ)	原価金額	売価金額	発注重量	出荷重量	受領重量
4922835120004	輸入牛キューブロール	2,000	2,500	1	ケース	2	2	2	2	2	2	64,400	80,500	32.0	32.2	32.2

【発注単位について】
①ケース（ダンボール）にネックと2分割肩ロースが入って『入数：3』。（入数は、分割数により異なる）
②発注単位コードは、ケースでよいのか？ （箱詰内容は、納品先により異なる。）
③チルド、フローズンは、商品コードにて分類する。（同じ部位でも単価が違う。）

1-5. 国産鶏【単品発注】の例 （定貫）

4922861010003	国産鶏肉もも(2kg×6)

前提①:国産鶏肉(2Kg×6)を2個発注した場合の発注データ
前提②:実際の納品が合計重量が24.0Kgだった場合の納品データ
前提③:入荷検品時の合計重量が24.0Kgだった場合の受領データ

[発注]

(推定)

発注商品コード	商品名	規格	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	原価金額	売価金額	単価登録単位	内容量	入数	発注荷姿	発注重量
4922860101 0003	国産鶏肉もも	2kg×6	1,000	1,200	1	ｹｰｽ	2	2	24,000	28,800	1Kg	12.0 Kg	6	ｹｰｽ	24.0

[出荷(納品)]

(再計算) (確定)

発注商品コード	商品名	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	出荷数量(発注単位数)	出荷数量(バラ)	欠品数量(発注単位数)	欠品数量(ﾊﾞﾗ)	原価金額	売価金額	発注重量	出荷重量
4922860101 0003	国産鶏肉もも	1,000	1,200	1	ｹｰｽ	2	2	2	2	0	0	24,000	28,800	24.0	24.0

[受領]

(再計算) (確定)

発注商品コード	商品名	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	出荷数量(発注単位数)	出荷数量(バラ)	受領数量(発注単位数)	受領数量(ﾊﾞﾗ)	原価金額	売価金額	発注重量	出荷重量	受領重量
4922860101 0003	国産鶏肉もも	1,000	1,200	1	ｹｰｽ	2	2	2	2	2	2	24,000	28,800	24.0	24.0	24.0

2-1. 国産牛スライスの例 （不定貫）

（パック発注）

4922723250004	国産牛ロースススライス（約200g）

前提①：約200g入国産牛ロースススライスを10パック(約2Kg)発注した場合の発注データ
前提②：実際の納品が合計重量が2.123Kgだった場合の納品データ
前提③：入荷検品時の合計重量が2.123Kgだった場合の受領データ

【発注形態について】
①納入者は、発注データをもとにｽﾗｲｽ肉を加工計量する。
②発注データを計量器へ連動し、計量指図データとする。

[発注]

(推定)

発注商品コード	商品名	規格	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	原価金額	売価金額	単価登録単位	内容量	入数	発注荷姿	発注重量
4922723250004	国産牛ﾛｰｽｽﾗｲｽ(約200g)	ﾊﾟｯｸ	1,000	1,200	1	ﾊﾟｯｸ	10	10	2,000	2,400	1Kg	0.200 Kg	10	ｸﾚｰﾄ	2.00

[出荷（納品）]

(再計算) (確定)

発注商品コード	商品名	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	出荷数量(発注単位数)	出荷数量(バラ)	欠品数量(発注単位数)	欠品数量(ﾊﾞﾗ)	原価金額	売価金額	発注重量	出荷重量
4922723250004	国産牛ﾛｰｽｽﾗｲｽ(約200g)	1,000	1,200	1	ﾊﾟｯｸ	1	10	10	10	0	0	2,123	2,548	2.00	2.123

[受領]

(再計算) (確定)

発注商品コード	商品名	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	出荷数量(発注単位数)	出荷数量(バラ)	受領数量(発注単位数)	受領数量(ﾊﾞﾗ)	原価金額	売価金額	発注重量	出荷重量	受領重量
4922723250004	国産牛ﾛｰｽｽﾗｲｽ(約200g)	1,000	1,200	1	ﾊﾟｯｸ	1	10	10	10	0	0	2,123	2,548	2.00	2.123	2.123

アウトパック商品はg単位での取引があり得る (Kgでは小数点以下3桁)。
事前に会社間で取り決めしておく内容。

2-2. 国産牛スライスの例 （定貫）

（パック発注）

4922723250103	国産牛ロースススライス（200g）

【発注形態について】
①定貫品と不定貫品を同じ伝票では、発注しない。

前提①：200g入国産牛ロースススライスを10パック(2Kg)発注した場合の発注データ
前提②：納品重量は、定貫なので2.0Kgの納品データ
前提③：入荷検品重量も2.0Kgだった場合の受領データ

[発注]

(推定)

発注商品コード	商品名	規格	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	原価金額	売価金額	単価登録単位	内容量	入数	発注荷姿	発注重量
4922723250103	国産牛ロースススライス(200g)	ﾊﾟｯｸ	1,000	1,200	1	ﾊﾟｯｸ	10	10	2,000	2,400	1Kg	0.200 Kg	10	ｸﾚｰﾄ	2.00

[出荷（納品）]

(再計算) (確定)

発注商品コード	商品名	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	出荷数量(発注単位数)	出荷数量(バラ)	欠品数量(発注単位数)	欠品数量(ﾊﾞﾗ)	原価金額	売価金額	発注重量	出荷重量
4922723250103	国産牛ロースススライス(200g)	1,000	1,200	1	ﾊﾟｯｸ	1	10	10	10	0	0	2,123	2,548	2.00	2.00

納品時パック不足の場合は、赤伝を発行する。

[受領]

(再計算) (確定)

発注商品コード	商品名	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	出荷数量(発注単位数)	出荷数量(バラ)	受領数量(発注単位数)	受領数量(ﾊﾞﾗ)	原価金額	売価金額	発注重量	出荷重量	受領重量
4922723250103	国産牛ロースススライス(200g)	1,000	1,200	1	ﾊﾟｯｸ	1	10	10	10	0	0	2,123	2,548	2.00	2.00	2.00

3-1. 国産豚ミンチの例 （不定貫）

（パック発注）→

4922747181001	国産豚ミンチ約300g入

【発注形態について】
①納入者は、発注データをもとにﾐﾝﾁ肉を加工計量する。
②発注データを計量器へ連動し、計量指図データとする。

前提①：約300g入国産豚ミンチを30パック(約9Kg)発注した場合の発注データ
前提②：実際の納品が合計重量が9.222Kgだった場合の納品データ
前提③：入荷検品時の合計重量が9.222Kgだった場合の受領データ

[発注]

(推定)

発注商品コード	商品名	規格	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	原価金額	売価金額	単価登録単位	内容量	入数	発注荷姿	発注重量
4922747181001	国産豚ミンチ約300g入	ﾊﾟｯｸ	1,000	1,200	30	ﾊﾟｯｸ	1	30	9,000	10,800	1Kg	0.30Kg	30	ｹｰｽ	9.00
4922747181001	国産豚ミンチ約300g入	ﾊﾟｯｸ	1,000	1,200	1	ﾊﾟｯｸ	30	30	9,000	10,800	1Kg	0.30Kg	30	ｹｰｽ	9.00

[出荷（納品）]

(再計算) (確定)

発注商品コード	商品名	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	出荷数量(発注単位数)	出荷数量(バラ)	欠品数量(発注単位数)	欠品数量(ﾊﾞﾗ)	原価金額	売価金額	発注重量	出荷重量
4922747181001	国産豚ミンチ約300g入	1,000	1,200	30	ﾊﾟｯｸ	1	30	1	30	0	0	9,222	11,066	9.00	9.222
4922747181001	国産豚ミンチ約300g入	1,000	1,200	1	ﾊﾟｯｸ	30	30	30	30	0	0	9,222	11,066	9.00	9.222

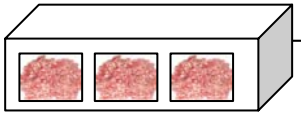
[受領]

(再計算) (確定)

発注商品コード	商品名	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	出荷数量(発注単位数)	出荷数量(バラ)	受領数量(発注単位数)	受領数量(ﾊﾞﾗ)	原価金額	売価金額	発注重量	出荷重量	受領重量
4922747181001	国産豚ミンチ約300g入	1,000	1,200	30	ﾊﾟｯｸ	1	30	1	30	1	30	9,222	11,066	9.00	9.222	9.222
4922747181001	国産豚ミンチ約300g入	1,000	1,200	1	ﾊﾟｯｸ	30	30	30	30	30	30	9,222	11,066	9.00	9.222	9.222

アウトパック商品はg単位での取引があり得る (Kgでは小数点以下3桁)。
事前に会社間で取り決めしておく内容。

（参考）国産豚ミンチ【ケース発注】の例 （不定貫）



（ケース発注）→

04200001	国産豚ミンチ約300g入ケース(30P)

前提①：約300g入国産豚ミンチを30P入1ｹｰｽ(約9Kg)発注の発注データ
前提②：実際の納品が合計重量が9.15Kgだった場合の納品データ
前提③：入荷検品時の合計重量が9.15Kgだった場合の受領データ

[発注]

(推定)

発注商品コード	商品名	規格	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	原価金額	売価金額	単価登録単位	内容量	入数	発注荷姿	発注重量
04200001	国産豚ミンチ約300g入30P	ﾊﾟｯｸ	1,000	1,200	1	ｹｰｽ	1	1	9,000	10,800	1Kg	0.30 Kg	30	ｹｰｽ	9.00

[出荷（納品）]

(確定)

発注商品コード	商品名	売価金額	発注重量	出荷重量
04200001	国産豚ミンチ約300g入30P	10,980	9.00	9.15

[受領]

(確定)

発注商品コード	商品名			単位	ト	(発注単位数)	(バラ)	(発注単位数)	(バラ)	(発注単位数)	(バラ)		金額	発注重量	出荷重量	受領重量
04200001	国産豚ミンチ約300g入30P	1,000	1,200	1	ｹｰｽ	1	1	1	1	1	1	9,150	10,980	9.10	9.15	9.15

このパターンは、ないのでは？
不定貫商品で、入数を決めて納品しているケースは、あまりない。
【理由】1ケースごとに内容量の合計重量が必要であり、計量作業の手間を増やすだけで、採用されない。

3-2. 国産豚ミンチの例 （定貫）

（パック発注）→

4922747181100	国産豚ミンチ300g入

【入数】定貫商品では、入数を決めて実施することが多い。

前提①:300g入国産豚ミンチを30パック(9Kg)発注した場合の発注データ
前提②:実際の納品が合計重量が9.00Kgだった場合の納品データ
前提③:入荷検品時の合計重量が9.00Kgだった場合の受領データ

[発注]

(推定)

発注商品コード	商品名	規格	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	原価金額	売価金額	単価登録単位	内容量	入数	発注荷姿	発注重量
4922747181100	国産豚ミンチ約300g入	ﾊﾟｯｸ	1,000	1,200	30	ﾊﾟｯｸ	1	30	9,000	10,800	1Kg	0.30Kg	30	ｹｰｽ	9.00
4922747181100	国産豚ミンチ約300g入	ﾊﾟｯｸ	1,000	1,200	1	ﾊﾟｯｸ	30	30	9,000	10,800	1Kg	0.30Kg	30	ｹｰｽ	9.00

[出荷（納品）]

(再計算) (確定)

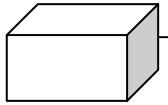
発注商品コード	商品名	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	出荷数量(発注単位数)	出荷数量(バラ)	欠品数量(発注単位数)	欠品数量(ﾊﾞﾗ)	原価金額	売価金額	発注重量	出荷重量
4922747181100	国産豚ミンチ約300g入	1,000	1,200	30	ﾊﾟｯｸ	1	30	1	30	0	0	9,000	10,800	9.00	9.00
4922747181100	国産豚ミンチ約300g入	1,000	1,200	1	ﾊﾟｯｸ	30	30	30	30	0	0	9,000	10,800	9.00	9.00

[受領]

(再計算) (確定)

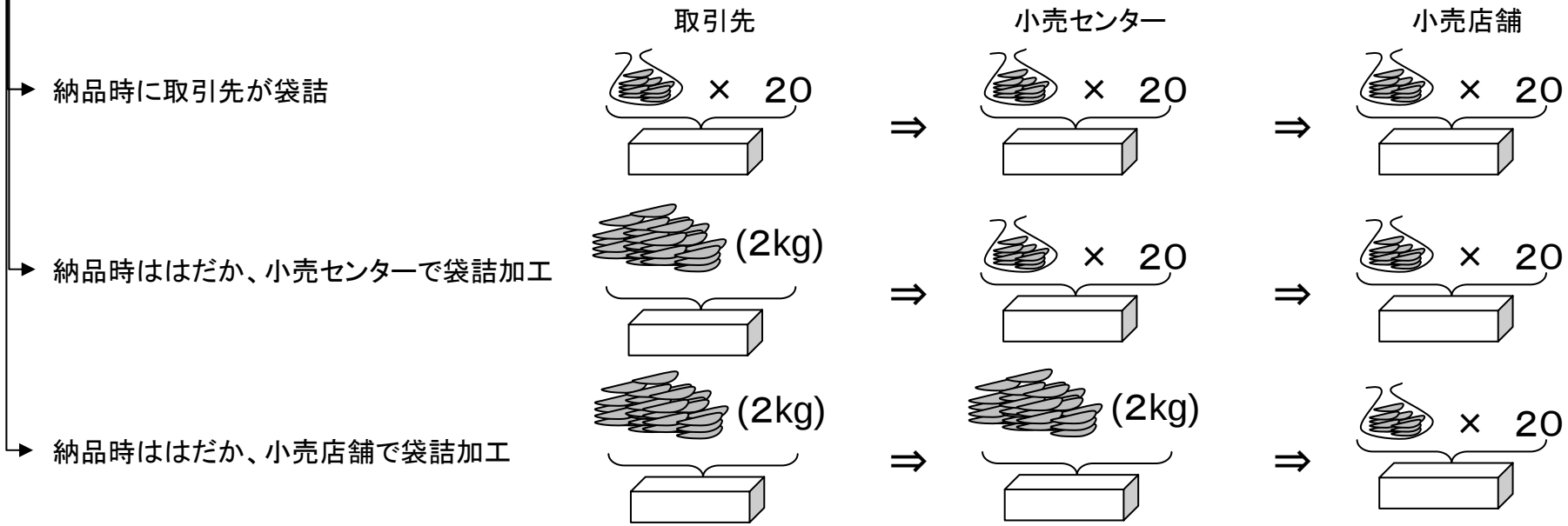
発注商品コード	商品名	原単価	売単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	出荷数量(発注単位数)	出荷数量(バラ)	受領数量(発注単位数)	受領数量(ﾊﾞﾗ)	原価金額	売価金額	発注重量	出荷重量	受領重量
4922747181100	国産豚ミンチ約300g入	1,000	1,200	30	ﾊﾟｯｸ	1	30	1	30	1	30	9,000	10,800	9.00	9.00	9.00
4922747181100	国産豚ミンチ約300g入	1,000	1,200	1	ﾊﾟｯｸ	30	30	30	30	30	30	9,000	10,800	9.00	9.00	9.00

Ⅲ－10. 商品加工についての補足



自社商品コード	形態
01700001	?(1袋200g)
01700002	ｹｰｽ(2kg入)

発注商品コード	商品名	規格	原単価	買単価	発注単位	発注単位コード	発注数量(発注単位数)	発注数量(バラ)	発注荷姿	原価金額	売価金額
01700001	さや豌豆1袋200g	200G	150	178	10	0000(個)	2	20	03(ｹｰｽ)	4,440	7,960



⇒ 商品コードで判断するため、メッセージ上に加工指示を目的とした項目は設けない

Ⅲ－11．産地セットの考え方

（1）次世代EDIメッセージ追加項目

項目名	型・桁	内容
産地コード	Identifier(3)	発注時に指定した産地または出荷時に確定した産地を表すコード。 ※海外産地の場合は、貿易統計上に発生する国名符号を使用する。 ※国都道府県内の市町村やエリア、水揚漁港名などはコード化せずに原産エリアに記載する。
産地名	Text(20)	発注時に指定した産地または出荷時に確定した産地を表す名称。
水域コード	Identifier(2)	漁獲水域を表すコード。漁獲統計海区に準じた分類とする。 ※細かいエリアや水揚漁港名などはコード化せずに原産エリアに記載する。
水域名	Text(20)	漁獲水域を表す名称。漁獲統計海区に準じた分類とする。
原産エリア	Text(30)	国、都道府県内のエリアを表す。市町村名、その他一般に知られている地名（「紀州産」、「カリフォルニア産」など）。 水産物の場合は、細かい水域名（相模湾、浜名湖産など）、水揚げ漁港（焼津港、銚子港など）を表す。

（2）生鮮におけるセット例

①農産物

項目名	内容	
産地コード	002	304
産地名	青森	アメリカ合衆国
原産エリア	弘前	カリフォルニア

②水産物

項目名	内容	
産地コード	042	103
産地名	長崎県	大韓民国
水域コード	10	10
水域名	東シナ海	東シナ海
原産エリア	対馬海峡	対馬海峡

③畜産物

項目名	内容	
産地コード	024	601
産地名	三重県	オーストラリア
原産エリア	松坂	タスマニア

Ⅳ. 出荷確定のルール

Ⅳ－１．受領確定型プロセス

■ 受領確定型プロセスとは、

- 商品、原価、等が発注ではなく、出荷時に決る。もしくは発注に対し、出荷時に変更する。
- T／A型とT／A以外（仮称：発注書型（取引番号なしで発注し後付け）の企業がある。
- 現行、T／A型で発注しても、変更分は取引先で手書伝票を起票している。この分を出荷データで送ってもらい、小売側の受領で取引番号を発番し、確定する。

■ 対象事例

- 例1： 生鮮商品のように、出荷時の商品が変わる→代替品、規格等、商品コードの変更。産地は通常、商品コードは変わらないが、行を分けて産地表示する。
- 例2： 生鮮の不定貫商品。出荷時重量で、数量・原価金額が確定する。
- 例3： メーカー・卸間では、商品により工場や出荷場所が異なる為、分納が発生する。発注行に対し、納品伝票を分けて納品する。

■ 出荷時変更の基準

- ①産地が変わった場合（分荷）　②原価が変わった場合
  ③規格変更が商品コードの変更になる場合。　④過剰納品を受ける場合
  ⑤入数の変更
- 元の取引番号にひもつけ、新しい出荷者番号、行で出荷データを追加作成（現行、手書伝票にあたる）。②③⑤は元の商品の出荷数量はゼロになる。

■ 新設項目

項目名	必須／任意	桁数	項目の意味	コード表
①取引番号有無区分	任意	2桁	発注メッセージにて、取引番号を小売側がセットする／しないを表す	有：01　T／A型、 無：02　発注書型。明細データのみ送付し、取引番号を後付
②元取引番号	任意	MAX10	出荷者管理番号にひもつく発注の取引番号	
③元取引明細番号	任意	MAX4	同、明細行番号	
④出荷者管理番号	任意	MAX10	出荷者側の取引管理番号	
⑤出荷者管理明細番号	任意	MAX4	同、明細行番号	

■ 受領確定について

- ①T／A型でも、商品が変わる場合は、取引先側で出荷者管理番号を発番、元の取引番号を元取引番号にセットして出荷データを作成する。取引番号は必須項目なのでゼロをセットする。小売が取引番号を発番して受領を返す。
- ②発注書型は、小売は取引付属番号に発注書番号をセットして発注する。取引番号は必須項目なのでゼロをセットする。取引先は出荷者管理番号を付番して、出荷を返す。小売が取引番号を発番して受領を返す。
- ③T／A型も、T／A型以外も、受領の取引番号により、請求～支払へとつなげる。
- ④発番ルールを明確にした上で、出荷者管理番号を、取引番号として使っても良い。
- ⑤手書伝票の場合は、小売が入力して受領を返す。

取引番号のまとめ

	項目名	T／A型					発注書型				
		発注	出荷	受領	返品	請求支払	発注	出荷	受領	返品	請求支払
発注分	取引番号有無区分	有	有	有	※項目なし		無	無	無		
	取引番号	○	○	○	○	○	×(ｾﾞﾛ)	×	○	○	○
	取引付属番号	×	×	×	△ 受領後の訂正時は元取引番号をセット		○ 発注書No.	○	○	△	
	元取引番号	×	×	×			×	×	×		
	出荷者管理番号	×	×	×			×	○	○		

変更あり

変更分	取引番号有無区分		有	有		
	取引番号		×(ｾﾞﾛ)	○	○	○
	取引付属番号		×	×	△	
	元取引番号		○	○		
	出荷者管理番号		○	○		

出荷者管理No.を取引番号にしてもよい

出荷ベースなので、発注書に対する変更後の出荷データができる

※斜線は未使用、グレー網掛けは対象外

Ⅳ－2. ①T／A型の受領確定　案1（別伝票化）

- T／A型発注でも、産地や規格が変わる。市場買付では原価が変わる。
- 分荷がある　→　出荷時、伝票を分ける

仲卸･卸
ｷｬﾍﾞﾂMは千葉産は
700個しかない
残り300個は栃木産
を出荷

発注

取引番号有無区分	取引番号	取引明細番号	取引付属番号	取引付属明細番号	元取引番号	元取引明細番号	出荷者管理番号	出荷者管理明細番号	商品コード	商品名	発注数量	
01:有	1234	01							4922001	ｷｬﾍﾞﾂM	1000	→
01:有	1234	02							4922002	ｷｭｳﾘ	800	

出荷

	取引番号有無区分	取引番号	取引明細番号	取引付属番号	取引付属明細番号	元取引番号	元取引明細番号	出荷者管理番号	出荷者管理明細番号	商品コード	商品名	発注数量	出荷数量	欠品数量	産地	産地単品コード
	01:有	1234	01							4922001	ｷｬﾍﾞﾂM	1000	700	300	千葉	490188xx3
	01:有	1234	02							4922002	ｷｭｳﾘ	800	800	0	千葉	490188xx6
追加 ⇨	01:有	0	0			1234	01	0201	01	4922001	ｷｬﾍﾞﾂM	0	300	0	栃木	453322xx1

受領

	取引番号有無区分	取引番号	取引明細番号	取引付属番号	取引付属明細番号	元取引番号	元取引明細番号	出荷者管理番号	出荷者管理明細番号	商品コード	商品名	発注数量	出荷数量	受領数量	産地	産地単品コード
	01:有	1234	01							4922001	ｷｬﾍﾞﾂM	1000	700	700	千葉	49x
	01:有	1234	02							4922002	ｷｭｳﾘ	800	800	800	千葉	49x
発番 ⇨	01:有	1235	01			1234	01	0201	01	4922001	ｷｬﾍﾞﾂM	0	300	300	栃木	45x

取引番号で請求／支払へ

②発注書型の受領確定

- 数量や原価合計が出荷で決るため、取引番号は発注時ではなく、受領で発番。
- 各社社内制度との関連があり、現時点ではT/A型とT/A以外の2案必要。

仲卸･卸
ｷｬﾍﾞﾂMは千葉産は
700個しかない
残り300個は栃木産
を出荷

発注

取引番号有無区分	取引番号	取引明細番号	取引付属番号	取引付属明細番号	元取引番号	元取引明細番号	出荷者管理番号	出荷者管理明細番号	商品コード	商品名	発注数量
02:無	0	0	0011	01					4922001	ｷｬﾍﾞﾂM	1000
02:無	0	0	0011	02					4922002	ｷｭｳﾘ	800

発注書№にあたる

出荷

取引番号有無区分	取引番号	取引明細番号	取引付属番号	取引付属明細番号	元取引番号	元取引明細番号	出荷者管理番号	出荷者管理明細番号	商品コード	商品名	発注数量	出荷数量	欠品数量	産地	産地単品コード
02:無	0	0	0011	01			0201	01	4922001	ｷｬﾍﾞﾂM	1000	700	300	千葉	490188xx3
02:無	0	0	0011	01			0201	02	4922001	ｷｬﾍﾞﾂM	0	300	0	栃木	493322xx1
02:無	0	0	0011	02			0201	03	4922002	ｷｭｳﾘ	800	800	0	千葉	490188xx6

受領

取引番号有無区分	取引番号	取引明細番号	取引付属番号	取引付属明細番号	元取引番号	元取引明細番号	出荷者管理番号	出荷者管理明細番号	商品コード	商品名	発注数量	出荷数量	受領数量	産地	産地単品コード
02:無	1235	01	0011	01			0201	01	4922001	ｷｬﾍﾞﾂM	1000	700	700	千葉	49x
02:無	1235	02	0011	01			0201	02	4922001	ｷｬﾍﾞﾂM	0	300	300	栃木	49x
02:無	1235	03	0011	02			0201	03	4922002	ｷｭｳﾘ	800	800	800	千葉	49x

取引番号で請求／支払へ

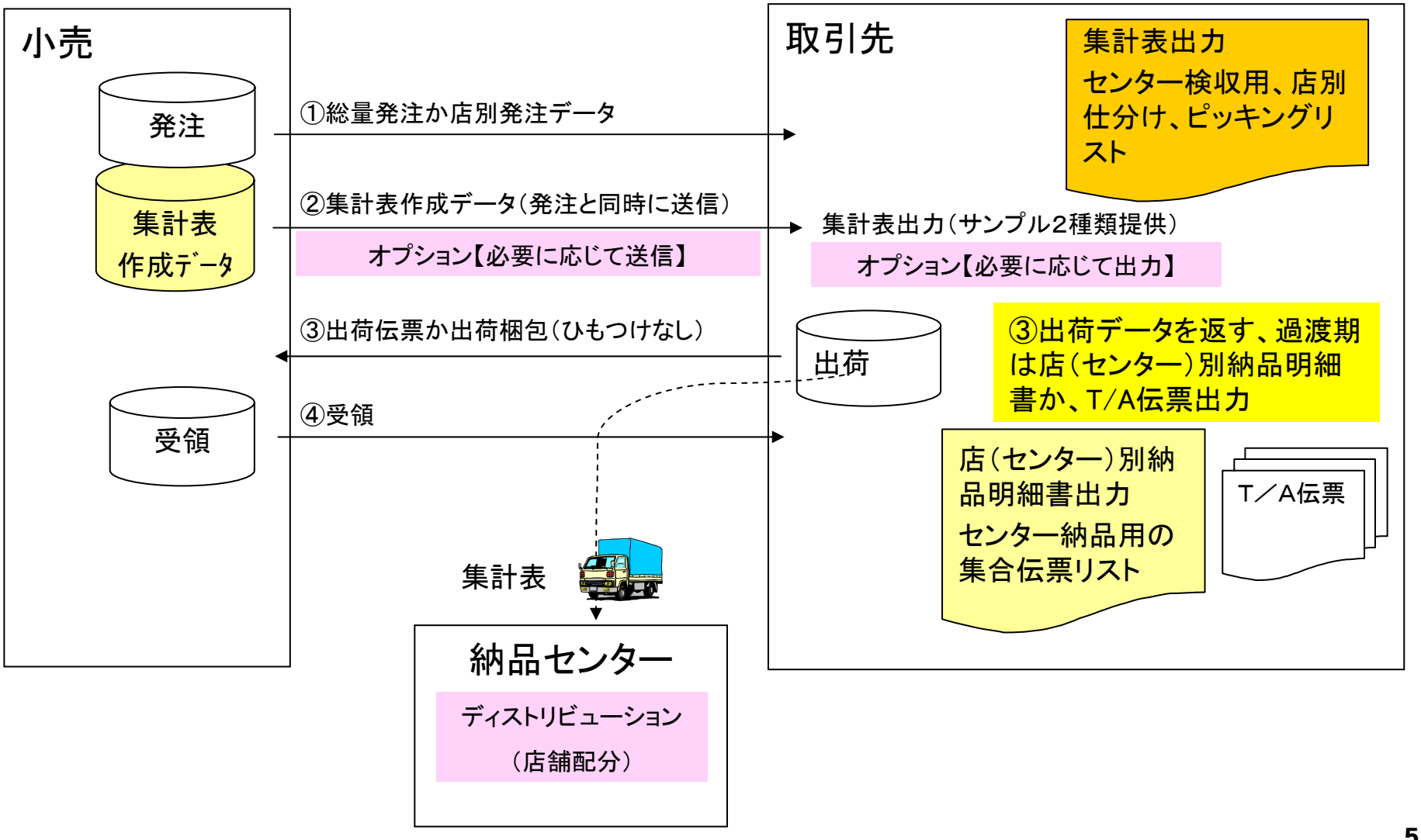
Ⅴ．集計表発注について

Ｖ－１．集計表発注について

集計表発注の現行機能から『①計上用データ』と『②集計表作成データ』に分けて考える。

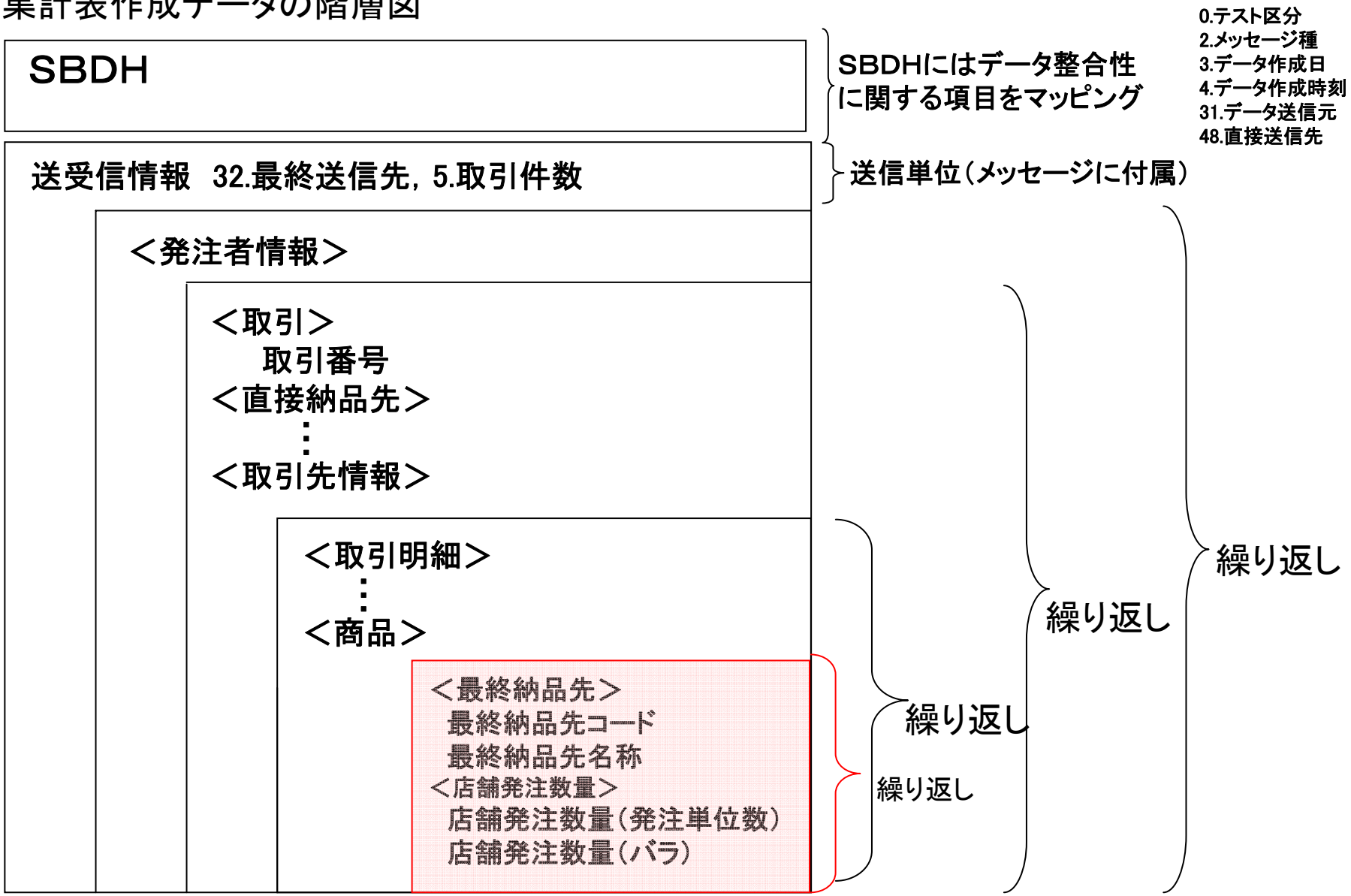
①計上用データ　　：発注～出荷～受領～請求～支払は標準版メッセージを使用する。

②集計表作成用データ：発注メッセージをベースに店別仕分に必要な最低項目のみをセットする。



Ｖ－２. 階層構造について（集計表作成データ）

■ 集計表作成データの階層図



Ｖ－３. 集計表サンプル（１）

集計表（品目別・店別）

Page:1

取引番号	枝	付属番号	納品日	取引先CD	取引先名	部門	区分	不定貫区分	便No	納品経路	配送温度	発注日	発注者CD	発注者名
012345678	00	00000000	2006/12/2	20000001	ＢＢ青果	03:青果	01:定番	02:定貫	01	ABCｾﾝﾀｰ	01:常温	2006/12/1	1001	ＡＡ小売

備考[　　]備考カナ[　　]

商品コード	商品名	規格	内容量	入数	発注単位	発注単位コード	発注数量（発注単位数）	発注数量（ﾊﾞﾗ）	原単価	売単価	原価金額	売価金額	発注荷姿
4922xxxxxxxx1	ふじりんごケース	ｹｰｽ		36玉	1	00:個	100	100	3,000	3,500	300,000	350,000	ｹｰｽ

店舗CD	店舗名	発注数(単位数)	(ﾊﾞﾗ)	店舗CD	店舗名	発注数(単位数)	(ﾊﾞﾗ)	店舗CD	店舗名	発注数(単位数)	(ﾊﾞﾗ)
0010	丸ノ内	20	20	0040	秋葉原	10	10	0070	浜松町	10	10
0020	有楽町	20	20	0050	新宿	10	10	0080	田町	10	10
0030	新橋	10	10	0060	品川	10	10				

商品コード	商品名	規格	内容量	入数	発注単位	発注単位コード	発注数量（発注単位数）	発注数量（ﾊﾞﾗ）	原単価	売単価	原価金額	売価金額	発注荷姿
									XXXXXXXXXXXX				
9999999999999	NNNNNNNNN	XXXXXX	99999	XXXXXX	999	99:NNN	9999	9999	999,999	999,999	9,999,999	9,999,999	XXXXXX

店舗CD	店舗名	発注数(単位数)	(ﾊﾞﾗ)	店舗CD	店舗名	発注数(単位数)	(ﾊﾞﾗ)	店舗CD	店舗名	発注数(単位数)	(ﾊﾞﾗ)
9999	NNNN	9999	9999	9999	NNNN	9999	9999	9999	NNNN	9999	9999
9999	NNNN	9999	9999	9999	NNNN	9999	9999	9999	NNNN	9999	9999
9999	NNNN	9999	9999	9999	NNNN	9999	9999	9999	NNNN	9999	9999
9999	NNNN	9999	9999	9999	NNNN	9999	9999	9999	NNNN	9999	9999
9999	NNNN	9999	9999	9999	NNNN	9999	9999	9999	NNNN	9999	9999
9999	NNNN	9999	9999	9999	NNNN	9999	9999	9999	NNNN	9999	9999
9999	NNNN	9999	9999	9999	NNNN	9999	9999	9999	NNNN	9999	9999
9999	NNNN	9999	9999	9999	NNNN	9999	9999	9999	NNNN	9999	9999
9999	NNNN	9999	9999	9999	NNNN	9999	9999	9999	NNNN	9999	9999
9999	NNNN	9999	9999	9999	NNNN	9999	9999	9999	NNNN	9999	9999
9999	NNNN	9999	9999	9999	NNNN	9999	9999	9999	NNNN	9999	9999
9999	NNNN	9999	9999	9999	NNNN	9999	9999	9999	NNNN	9999	9999

集計表サンプル（2）

集計表（店別・品目別）

Page:1

取引番号	枝	付属番号	納品日	取引先CD	取引先名	部門	区分	不定貫区分	便No	納品経路	配送温度	発注日	発注者CD	発注者名
012345678	00	00000000	2006/12/2	20000001	ＢＢ青果	03:青果	01:定番	02:定貫	01	ABCｾﾝﾀｰ	01:常温	2006/12/1	1001	ＡＡ小売

備考[　　]備考カナ[　　]

商品コード	発注荷姿	発注単位	発注数量	ﾊﾞﾗ数	店舗CD	0010	0020	0030	0040	0050	0060	0070	0080	0090	0100	9999
商品名	内容量	単位CD	原単価	原価金額	店舗名	丸ノ内	有楽町	新橋	秋葉原	新宿	品川	浜松町	田町	大井町	大森	ＮＮＮＮ
規格	入数		売単価	売価金額												
4922xxxxxxxx1	ｹｰｽ	1	100	100	単位数	20	20	10	10	10	10	10	10			
ふじりんごケース		00:個	3,000	300,000												
ｹｰｽ	36玉		3,500	350,000	ﾊﾞﾗ数	20	20	10	10	10	10	10	10			
4922xxxxxxxx2	ｹｰｽ	1	50	50	単位数	10								20	20	
温州みかんケース		00:個	3,000	150,000												
ｹｰｽ			3,500	175,000	ﾊﾞﾗ数	10								20	20	
					単位数											
					ﾊﾞﾗ数											
9999999999999	XXXXXX	999	9999	9999	単位数	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999
ＮＮＮＮＮＮＮＮ	99999	99:XXXX	999,999	999,999												
XXXXXX	XXXXXX		999,999	999,999	ﾊﾞﾗ数	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999
9999999999999	XXXXXX	999	9999	9999	単位数	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999
ＮＮＮＮＮＮＮＮ	99999	99:XXXX	999,999	999,999												
XXXXXX	XXXXXX		999,999	999,999	ﾊﾞﾗ数	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999
9999999999999	XXXXXX	999	9999	9999	単位数	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999
ＮＮＮＮＮＮＮＮ	99999	99:XXXX	999,999	999,999												
XXXXXX	XXXXXX		999,999	999,999	ﾊﾞﾗ数	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999
9999999999999	XXXXXX	[illegible]	[illegible]	9999	単位数	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999	9999

Ⅵ. 仮伝運用について

Ⅵ－１．仮伝運用について

■ 仮伝の運用とは？

生鮮品の特性上、真夜中に物流が行われるが、会社間の取引条件で単価変更がその場で確定できないような場合が発生する。その場合、仮単価で出荷し、後で相手先に確認して確定データとするような運用がある。

対応案.「仮伝フラグ」を追加する。

「仮伝フラグ」が「０１」の場合は仮伝とし、「原単価」を「仮単価」として扱う。「仮伝フラグ」が「００」の場合を本伝とし、「原単価」を正として対応した受領データを返す。

Ⅵ－2. 仮伝フラグを使用した運用方法

単価を変えざるを得ない際に、出荷先に確認がとれない場合、その時点では仮単価として出荷し、後日確認し、単価確定後、正式出荷とする。

発注

取引番号	取引明細番号	元取引番号	元取引明細番号	出荷者管理番号	出荷者管理明細番号	商品コード	商品名	発注数量	産地	原単価	原価金額
1234	01					4922001	ｷｬﾍﾞﾂM	1000	千葉	100	100000
1234	02					4922002	ｷｭｳﾘ	800	千葉	100	80000

仮出荷（仮伝）

仮伝フラグ	取引番号	取引明細番号	元取引番号	元取引明細番号	出荷者管理番号	出荷者管理明細番号	商品コード	商品名	発注数量	出荷数量	欠品数量	産地	原単価	原価金額
01	1234	01					4922001	ｷｬﾍﾞﾂM	1000	700	300	千葉	100	70000
01	1234	02					4922002	ｷｭｳﾘ	800	800	0	千葉	100	80000
01	0	0	1234	01	0201	01	4922001	ｷｬﾍﾞﾂM	0	300	0	栃木	120	36000

本出荷（本伝）

仮伝フラグ	取引番号	取引明細番号	元取引番号	元取引明細番号	出荷者管理番号	出荷者管理明細番号	商品コード	商品名	発注数量	出荷数量	欠品数量	産地	原単価	原価金額
00	1234	01					4922001	ｷｬﾍﾞﾂM	1000	700	300	千葉	100	70000
00	1234	02					4922002	ｷｭｳﾘ	800	800	0	千葉	100	80000
00	0	0	1234	01	0201	01	4922001	ｷｬﾍﾞﾂM	0	300	0	栃木	120	36000

受領

取引番号	取引明細番号	元取引番号	元取引明細番号	出荷者管理番号	出荷者管理明細番号	商品コード	商品名	発注数量	出荷数量	受領数量	産地	原単価	原価金額
1234	01					4922001	ｷｬﾍﾞﾂM	1000	700	700	千葉	100	70000
1234	02					4922002	ｷｭｳﾘ	800	800	800	千葉	100	80000
1235	01	1234	01	0201	01	4922001	ｷｬﾍﾞﾂM	0	300	300	栃木	120	36000

取引番号で請求／支払へ

Ⅶ. 訂正・取り消し

Ⅶ－1.訂正・取消のルール

①. 発注訂正および1度送った出荷や受領の訂正・取消は、今回の標準化対象としない。

②. 仮発注（特売、品切れ防止、販促等のため小売が仮で発注し、確定を後から本発注で行う）は、「発注訂正」ではなく「予約発注」という発注のヴァリエーションと位置付ける。

・データ内容は、発注データを使い、メッセージ種で、予約発注なのか本発注なのかを判別

③. データ交換の基本ルール：受信明細には必ず返信がされることとする。

・発注に対しては、全行欠品の場合でも出荷データを全行返す。（出荷数量＝0）

・出荷に対しては、全行欠品の場合でも受領データは全行返す。（受領数量＝0）

④. 小売側の受領データでの、卸メーカーからの出荷内容の訂正は、当事者間の事前の取り決めに基づき実施する。

⑤. 当事者間で事前の取り決めがあり、合意があれば、受領データ送信後でも、小売が、返品理由を「受領訂正」とした返品データを使用して訂正できることとする。

障害発生時、例えば、1. メッセージ単位で取消が必要な場合、や、2. 出荷データが送信できないまま商品が納品された場合　には、双方協力して解決を図るものとする。

Ⅶ－2. 訂正･取消連絡に使用する区分

①. 処理種別　メッセージの取引の種別（仕入、返品、移動、値引等）で、
小売側で使用する伝票区分にあたる。

- 小売側で伝票入力（伝票レスが浸透するまでは必要）や、社内のしくみとの連携に使用する為、現行業務の担保の観点から、小売自由使用項目として継続する。
- 小売と卸･ﾒｰｶｰ間でのメッセージの識別については、メッセージ種を使用。
- 処理種別の内容で、卸･ﾒｰｶｰ側に判断を求めることが無いようにする。

②. 訂正区分　納品検収時の差異理由。小売側が受領データにセットする。

- 00訂正なし、01商品違い（取引先責）、02価格違い（取引先責）、
- 03誤仕分け（取引先責）、04汚破損（取引先責）、05遅納品（取引先責）、
- 06鮮度基準外（取引先責）、07数量不足（取引先責）、
- 08数量過多（取引先責）　ここは各社独自とする
- 09その他（小売責）　手書伝票入力時等、特別な場合に使用。

Ⅶ－3. 発注～出荷～受領　までの数量訂正の流れ

①. 卸・メーカー側の欠品による数量修正は出荷データで行う。納品のない場合は出荷ゼロとして作成（行抜けはしない）小売検品時の数量修正は受領データで行う。出荷数ゼロに対する受領も数量ゼロで作成する。

発注

取引番号		0002
NO	商品	発注
01	A	5
02	B	6
03	C	7
	合計	18

出荷

取引番号		0002	
NO	商品	発注	出荷
01	A	5	5
02	B	6	0
03	C	7	3
	合計	18	8

受領

取引番号		0002		
NO	商品	発注	出荷	受領
01	A	5	5	5
02	B	6	0	0
03	C	7	3	2
	合計	18	8	7

②. 卸・メーカー側の欠品により取引番号全体で出荷数ゼロの場合でも、全行ゼロで作成。（発注分に対し、出荷データはすべて作成する）全行ゼロの出荷に対する小売受領データも数量ゼロで作成する。

発注

取引番号		0003
NO	商品	発注
01	A	5
02	B	6
03	C	7
	合計	18

出荷

取引番号		0003	
NO	商品	発注	出荷
01	A	5	0
02	B	6	0
03	C	7	0
	合計	18	0

受領

取引番号		0003		
NO	商品	発注	出荷	受領
01	A	5	0	0
02	B	6	0	0
03	C	7	0	0
	合計	18	0	0

③梱包型の出荷メッセージを使用する場合も基本的には同じ考え方。但し、欠品が発生する場合、別途欠品レコードを作成する必要がある。また、商品が複数梱包にまたがる場合があるので、その時の出荷メッセージの発注数をセット方法に注意が必要。

発注

取引番号		0002
NO	商品	発注
01	A	5
02	B	6
03	C	7
	合計	18

出荷（梱包）

梱包No 00000001

取引番号	No	商品	発注	出荷
0002	01	A	5	2

梱包No 00000002

取引番号	No	商品	発注	出荷
0002	01	A	5	3
0002	03	C	7	3

以下欠品レコード

取引番号	No	商品	発注	欠品
0002	02	B	6	6
0002	03	C	7	4

受領

取引番号		0002		
NO	商品	発注	出荷	受領
01	A	5	5	5
02	B	6	0	0
03	C	7	3	2
	合計	18	8	7

梱包が割れた場合も、
同じ発注数をセットする

取引番号-No 発注数 ＝ 取引番号-No 出荷数＋欠品数

④卸さん側の欠品により取引番号全体で出荷数ゼロの場合でも、全行欠品レコードとして作成。（発注分に対し、出荷データはすべて作成する）全行ゼロの出荷に対する小売受領データも数量ゼロで作成する。

発注

取引番号		0003
NO	商品	発注
01	A	5
02	B	6
03	C	7
	合計	18

出荷（梱包）

すべて欠品レコード				
取引番号	No	商品	発注	欠品
0003	01	A	5	5
0003	02	B	6	6
0003	03	C	7	7

受領

取引番号		0003		
NO	商品	発注	出荷	受領
01	A	5	0	0
02	B	6	0	0
03	C	7	0	0
	合計	18	0	0

Ⅶ－4. 小売受領後の訂正（納品不足）

①. 返品データを使用する。返品理由を「16：納品訂正（受領後訂正）」とする。
（受領後の全取消は、全行返品になる。）

②. データはすべて支払案内にのせ、取引行為（受領後の訂正）があったことがわかるようにする。

受領データ

メッセージ種	取引番号（発注・返品）	取引明細番号（発注・返品）	商品コード（発注用）	発注数量	出荷数量	受領数量	原単価	原価金額	訂正区分
300	12345	1	4912345789011	5	3	3	500円	1500円	00
300	12345	2	4912345678909	10	10	10	100円	1000円	00

（例）店で数量違いが発覚！
10個が8個だった

返品データ

メッセージ種	取引番号（発注・返品）	取引明細番号（発注・返品）	商品コード（発注用）	返品数量	理由ｺｰﾄﾞ	取引付属番号（元伝No.）	取引付属明細番号（元伝行No.）	原単価	原価金額	訂正区分
400	54321	1	4912345678909	2	016	12345	2	100円	200円	00

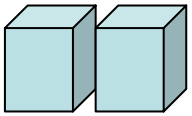
商品がない返品。返品の理由コード「016：納品訂正（受領後の訂正）」をセット

元伝No.・元伝行No.をセット

Ⅶ－5.（参考）小売受領後の訂正（過剰納品）

過剰納品措置は各社ルールに従う。（受ける場合は、新取引番号の仕入受領データを小売側が作成、または、受領データの受領数に加算する等）

（例）発注10個なのに、12個納品された。過剰分の2個も引取ることにした。



受領データ

メッセージ種	取引番号（発注・返品）	取引明細番号（発注・返品）	商品コード（発注用）	発注数量	出荷数量	受領数量	原単価	原価金額	訂正区分
300	12345	1	4912345789011	5	3	3	500円	1500円	00
300	12345	2	4912345678909	10	10	10	100円	1000円	00

仕入データ（新規）

メッセージ種	取引番号（発注・返品）	取引明細番号（発注・返品）	商品コード（発注用）	発注数量	出荷数量	受領数量	原単価	原価金額	訂正区分
300	67890	1	4912345678909	0	0	2	100円	200円	00

もしくは受領データの受領数を10⇒12に訂正

メッセージ種	取引番号（発注・返品）	取引明細番号（発注・返品）	商品コード（発注用）	発注数量	出荷数量	受領数量	原単価	原価金額	訂正区分
300	12345	1	4912345789011	5	3	3	500円	1500円	00
300	12345	2	4912345678909	10	10	12	100円	1200円	08

Ⅶ－６．受領・取消の支払案内表示

データはすべて支払案内にのせ、取引行為があったことをわかるようにする。

支払案内データ

	支払内容	取引番号（発注・返品）	請求書番号		請求金額符号	支払金額符号	請求金額	支払金額
返品の場合	1001	12345	00001		＋	＋	2500円	2500円
	1002	54321	00002		＋	＋	200円	200円
過剰納品の場合	1001	67890	00003		＋	＋	200円	200円